

# 花壇づくりのヒント 12か月

## 2月 多年草の株分け

一年で枯れずに何年も育つ植物を多年草といいます。毎年同じ時期に花を咲かせてくれるので、花壇や寄せ植えに季節感を演出してくれる貴重な存在です。是非お気に入りの多年草を育ててみましょう。

### 1. 一年草と多年草

(1) 一年草 日本の気候では屋外で越冬または夏越しできずに、一年で発芽、開花し、種をつけて枯れる植物。  
(パンジー、キンギョソウ、ペゴニア、コリウスなど)

(2) 多年草 何年も株が成長し、花を咲かせる植物。多年草のうち、生育に適さない季節は地上部が枯れ根だけ残り、適期にまた成長を始める種類を宿根草という。  
(クリスマスローズ、エキナセアや宿根サルビア、ミントなどのハーブ、ヘデラやヤブランなどの葉物など)



※名古屋でおすすめの多年草を「なごや花の環ネットウェブサイト」⇒「知る」⇒「花壇づくりのコツ」ページでも紹介しています。

### 2. 多年草の株分け

一度植えたら、何年も花を咲かせてくれる多年草ですが、長い年数植えばなしで放っておくと、株が大きくなりすぎて栄養を取りあい、花つきや成長が悪くなってきます。植えて2～4年経ったら株分けして株を若返らせましょう。

#### 〈株分けの目的〉

- 大きくなりすぎた株をコンパクトにし、1株が育つ空間を大きくすることで成長を促す。
- 分けて数を増やす。
- 成長とともに広がって、もともと植えてある位置からずれてしまった株を配置しなおす。

### 3. 株分けについて

#### (1) 適期

株分けの適期は早春(2月末～3月)または秋(10月～11月)です。寒さ、暑さが落ち着き、根や芽が成長し始めるころに行いましょう。クリスマスローズのように冬から早春に花を咲かせる多年草や屋内で育てる観葉植物のように寒さに弱い多年草は、秋の寒くなる前に株分けを行い、冬の前に根が伸びるようにしましょう。

#### (2) 方法

##### ① 親株を分ける

できるだけ根を切らないように注意して、株全体を掘り上げます。土を軽く落とし、根の状態を見ながら株を分けます。親株が大きくなり、まわりに新しい芽や枝、葉が増えているので、それを分けて植え替えます。

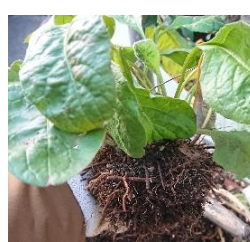
【例：ガーベラの株分け】寄せ植えの中心で大きくなったガーベラを株分けて植替え、育つ空間を広げます。



・寄せ植えの中央で育ったガーベラ。



・良く見ると株が分かっている。



・根をなるべく残して掘り上げる。



・それぞれ芽が残るよう分ける。



・手で分けられない場合はハサミやナイフで分ける。



・それぞれの株に根と新芽が残るようにする。



・今回は1株はもとの寄せ植えに戻し、2株は新しい鉢に植え替えて増やした。



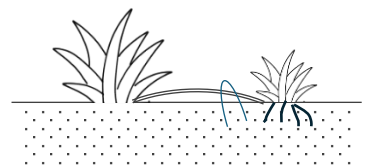
### ② ランナーで分ける

元の株からつるのような「ランナー」と呼ばれる「ほふく茎（けい）」を伸ばし、その先端に子株をつくる種類は、ランナーを利用して株分けができます。（イチゴやオリヅルランなどがよく知られています。）



・ここで切って分ける。

・根が出ていればそのまま植えられる。



・子株が浮いている場合は、ワイヤー等で地面に固定し、根を生やしておくとうれい。

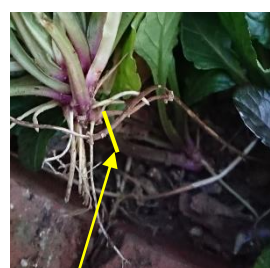
【例：アジュガの株分け】 株が増えて密になり、花壇からはみ出てきたアジュガを株分けして植え替えます。



・ここでも分けられる。



・ランナーでつながっている。



・ここで切って分ける。



・根を残すように掘り上げる。

### (3) 株分け後の管理

根が乾かないうちに植つけ、しっかり水をあげます。植える時に、株と株の間は充分に開けましょう。

株分け後は根が弱っています。乾きすぎないように、水やりに注意します。

(※：冬の水やりのタイミングは「花壇づくりのヒント 12 か月 1 月花壇管理」をご参考に。)



・深植えにならないように注意



・芽が土に埋まらないように。



・株元にしっかり水やり

植物の成長が活発になる春が待ち遠しいですね！！

★次回3月は『ツバキなど庭の花木の剪定』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願ひします。